



こどもたちの“居場所”と“遊び”を支える地域の拠点

児童館・放課後児童クラブの取組から



▲ピザ窯作りの様子

方とは異なります。遊びの中で失敗や成功体験を繰り返しながら、学校で学んだ知識や教育を生かして、こども同士の関わりの中で生きる力を身につけていく。これは発達・成長に欠かせないものです」と語ります。

しかし、大人の視点では「遊んでばかり」「もっと勉強を」といった声が出やすく、遊びが軽視される傾向があります。少子高齢化が進む社会では、大人の価値観が反映されやすく、こどもたちの遊びの重要性が見えにくくなっているかもしねません。



かつてこどもたちは、近所の公園や友だちの家で遊ぶことが当たり前でした。今では、共働き世帯の増加や安全面への配慮から、自由な遊び場は減少傾向にあります。だからこそ、地域の中でこどもたちが安心して過ごせる居場所の一つである「児童館」や「放課後児童クラブ」は重要な役割を担っています。

今回は、宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会の齋藤勇介会長にお話しを伺いました。

児童館と放課後児童クラブ

児童館は児童福祉法に定められた児童福祉施設の一つで、0歳から18歳未満までの「こども」に、つながりを持つて寄り添える唯一の児童厚生施設です。地域の子育て支援事業は乳幼児期、小学校であれば6年間、中学校であれば3年間というように支援が細切れとなります。が、一貫してつながりを持ち、寄り添えることが強みです。また、放課後児童クラブは、保護者が仕事などで専門家庭にいない小学生を対象に、安心して過ごせる遊びや生活の場を提供し、健全な育成を支える取組です。

宮城県内では、児童館の事業の中に放課後児童クラブを位置づけて、一体的に運営している施設も多くみられます。そのため、児童館は「小学生を対象とした保育施設」と誤解されることもあります。しかし本来、

児童館は乳幼児期から中高生世代までのこどもの発達に応じた支援を行いながら、地域の子育ての核となり、地域ネットワークの拠点としての役割を担っています。

児童館は地域全体をこどもたちのフィールドとして捉え、そのイメージを体現する拠点です。また、こどもたちの居場所として、幅広い世代の子育てやこどもの育ちに寄り添える場所でもあります。困った時や、こどもたちにとっての居場所が必要な時には、ぜひ「児童館」を頭に思い浮かべてほしいです。いつでも気軽に足を運んでみてください。



児童館や放課後児童クラブは「安心して過ごせる居場所」の一つ

「こどもたちは今、学校も5時間・6時間授業が当たり前です。放課後も習い事などで多忙な毎日を過ごしております。放課後にほつとできる時間が必要です。

放課後のこどもたちは、大人

や背景に寄り添い、目の前のこどもたちに必要な環境に思いを馳せて居場所づくりをしていくことが必要です。その中で、たとえ一人のこどもでも『「こ」が私の居場所だ』と感じてくれるなら、その取組はすごく価値のある活動だと思います」

齋藤会長は「こうも話します。「児童館や放課後児童クラブの取組を通じて、こどもにとつての居場所や遊びの重要性に思いを馳せた取組が広がることで、「居場所づくり」という言葉が特別なものではなく、地域に根付いた当たり前の活動となる社会にしていきたいです」

**「居場所づくり」という言葉
がいらなくなる日まで**

「居場所」とは、こども自身が「こ」が自分の居場所と感じるもの。大人が一方的に居場所を提供するだけでは、本当の意味での居場所にはなりません。

齋藤会長は次のように語ります。「児童館はもちろん地域の大人が、こども一人一人の思い

「こどもたちが居場所だと思えるような環境を目指す視点」こそが、様々な居場所づくりを行っている人たちに求められています。これからも児童館や放課後児童クラブが、地域のこつした取組の拠点となり、「遊び」を支える活動が広がっていくことを期待しています。

齋藤会長から読者へのメッセージ



児童館は、地域全体をこどもたちのフィールドとして捉え、そのイメージを体現する拠点です。また、こどもたちの居場所として、幅広い世代の子育てやこどもの育ちに寄り添える場所でもあります。困った時や、こどもたちにとっての居場所が必要な時には、ぜひ「児童館」を頭に思い浮かべてほしいです。いつでも気軽に足を運んでみてください。

